

## 2019年5月期 第2四半期 決算概要

- インソーシングやキャリアソリューション事業などが伸長し、売上高は 164,692 百万円  
(前年同期比+9.3%)
- 増収に加えて効率化も進み粗利率が改善。売上総利益は 36,158 百万円 (同+13.2%)、  
営業利益は 3,732 百万円 (同+42.5%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は 631 百万円  
(同+34.2%) と大幅な増益

### 1. 第2四半期連結業績 (2018年6月1日~11月30日)

(百万円)

	2018年5月期 2Q	2019年5月期 2Q	増減	増減率
売上高	150,619	164,692	+14,072	+9.3%
売上総利益 (売上比)	31,931 21.2%	36,158 22.0%	+4,226 +0.8pt	+13.2%
販売費及び一般管理費 (売上比)	29,313 19.5%	32,425 19.7%	+3,112 +0.2pt	+10.6%
営業利益 (売上比)	2,618 1.7%	3,732 2.3%	+1,114 +0.5pt	+42.5%
経常利益 (売上比)	2,634 1.7%	3,538 2.1%	+903 +0.4pt	+34.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (売上比)	470 0.3%	631 0.4%	+161 +0.1pt	+34.2%

### 2. セグメント別連結業績 (セグメント間取引消去前)

(百万円)

	売上高	前年同期比		営業損益	前年同期比	
エキスパートサービス (人材派遣)	83,827	+5,336	+6.8%	2,801	+471	+20.2%
インソーシング (委託・請負)	45,119	+5,922	+15.1%			
HRコンサルティング、教育・研修、その他	3,817	+581	+17.9%			
グローバルソーシング (海外人材サービス)	3,923	+417	+11.9%			
キャリアソリューション (人材紹介、再就職支援)	9,209	+1,057	+13.0%	1,942	+453	+30.5%
アウトソーシング	16,763	+514	+3.2%	3,374	+859	+34.2%
ライフソリューション	2,743	+232	+9.2%	65	△45	△41.2%
パブリックソリューション	1,612	+413	+34.5%	△685	+46	-
消去又は全社	△2,325	△402	-	△3,765	△670	-
<b>合計</b>	<b>164,692</b>	<b>+14,072</b>	<b>+9.3%</b>	<b>3,732</b>	<b>+1,114</b>	<b>+42.5%</b>

#### 主要セグメントの増減理由

エキスパートサービス	ニーズは引き続き堅調でメーカーや商社など幅広い業種から多くの受注。IT、外国語、経理などが伸長。M&Aの寄与に加えNTTグループの2社については決算期変更で8ヶ月分の業績計上。
インソーシング	引き続き拡大。コンタクトセンター等を運営するビーウィズ(株)がAI技術とオペレーションノウハウを活かし大きく業績を伸ばす。パブリック分野の行政事務代行は堅調。中央省庁の大型案件で伸長。
グローバルソーシング	体制強化が進み二桁増収。インドネシアのDGS <sup>※1</sup> の営業強化で派遣稼働者数が順調に伸び、北米では人材需要拡大。為替影響が若干マイナスに働いたが多くの地域で業績を伸ばす。
キャリアソリューション	人材紹介事業は質の高いサービスの提供を継続し、特に管理部門職の成約が増加し業績伸長。「顧問ネットワーク」も着実に拡大。再就職支援は、前期末からの大口案件の寄与で堅調に推移。
アウトソーシング	福利厚生事業とヘルスケア事業で取引が拡大し業績を牽引。原価と販管費の抑制に取り組む。報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業では新規の顧客層が広がる。

<sup>※1</sup> PT. Dutagriya Sarana (デュータグリヤ サラナ)

### 3. 財政の状況

(百万円)

	2019年5月期 2Q末	前期末比		増減要因
		増減	増減率	
流動資産	76,057	+2,070	+2.8%	現金及び預金の増加 1,736 百万円、 受取手形及び売掛金の減少 603 百万円、 有形固定資産の増加 892 百万円等
固定資産	38,857	+366	+1.0%	
資産合計	114,914	+2,437	+2.2%	
流動負債	54,511	△3,118	△5.4%	買掛金の減少 2,261 百万円、 長期借入金の増加 1,777 百万円、 流動負債のその他に含まれる未払消費税の減少 538 百万円等
固定負債	22,874	+1,916	+9.1%	
負債合計	77,385	△1,202	△1.5%	
純資産合計	37,529	+3,639	+10.7%	親会社株主に帰属する四半期純利益 631 百万円、 子会社株式の一部売却による増加 3,344 百万円、 配当金の支払 514 百万円等
自己資本比率	23.5%	+2.5pt		

\*『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を2019年5月期第1四半期より適用しており、前期末比については遡及処理後の前期末の数値で計算しています。

### 4. キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当期末残高 26,630 百万円

(百万円)

	2019年5月期 2Q末	増減	資金増減の主な内訳
営業活動による CF	△41	△499	増加は税金等調整前四半期純利益 3,508 百万円、 減価償却費 2,125 百万円、のれん償却額 511 百万円、 売上債権の減少 658 百万円等 減少は、営業債務の減少 2,733 百万円、 法人税等の支払額 2,016 百万円、 その他に含まれる立替金の増加 1,525 百万円等
投資活動による CF	△3,650	+4,265	減少は固定資産の取得による支出 3,030 百万円、 敷金及び保証金の差入による支出 447 百万円等
財務活動による CF	+5,205	+1,050	増加は長期借入れによる収入 5,328 百万円、 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による 収入 4,899 百万円等 減少は長期借入金の返済による支出 3,073 百万円、 配当金の支払額 1,629 百万円等
フリーCF	△3,691	+3,766	

### 5. 2019年5月期（2018年6月1日～2019年5月31日）連結業績予想

第2四半期連結業績については、インソーシング事業での売上拡大及びノウハウ蓄積による粗利率の向上、アウトソーシング事業での業務効率化、キャリアソリューション事業での利益拡大が進み、営業利益以下、利益が期初計画を上回りました。通期連結業績予想については、事業を取り巻く環境が先行き不透明な部分もあり、2018年7月13日に公表した業績予想を据え置きます。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2019年5月期 業績予想	343,000	8,300	8,400	1,600
2018年5月期 実績	311,410	6,539	6,631	1,288
前期比増減率	+10.1%	+26.9%	+26.7%	+24.2%

四半期ごとの連結業績およびセグメント別業績データは <https://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。